

授業科目名： 球技演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木由起子 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教育の指導法に関する科目 (中高保体)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる (専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる (実践力)			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 球技種目の教材の作り方を修得する。 (2) 球技種目の指導法を「主体的・対話的で深い学び」を通して修得する。 (3) 球技種目の教材づくりや指導法の振り返りを通して、球技の楽しさを伝える力を身に付ける			
授業の概要 中学校及び高等学校体育における球技は「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」に分類される。授業では、①身体や道具を操作すること。②ゲームの中での攻防を合理的に展開することを生徒ができることを目標とする。また、③主体的・対話的で深い学びを促すように指導できること。④技術・技能の上達だけでなく、フェアプレイ、態度やルールなどの正しい知識。⑤安全管理などの正しい思考・判断も指導していけることとする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：技能課題の探究 (ゴール型、ネット型、ベースボール型の特徴を踏まえて) 第3回：知的課題の探究 (ゴール型、ネット型、ベースボール型の特徴を踏まえて) 第4回：チームワーク・コミュニケーション課題の探究 第5回：フェアプレイの態度の探究 第6回：教材と用具の活用方法の工夫とルールの工夫 第7回：指導技術の探究 (ゴール型、ネット型、ベースボール型の特徴を踏まえて) 第8回：グループによるワークの創造と発表 第9回：指導案作成 (1) 指導案の構成 第10回：指導案作成 (2) 指導案の作成 第11回：指導案作成 (3) 指導案の振り返り 第12回：模擬授業 (1) 模擬授業 第13回：模擬授業 (2) 模擬授業の振り返り 第14回：指導案の改善と発表 第15回：まとめ 定期試験			
スクーリングでの学修 (1) ゴール型のバスケットボールの特徴と学習効果について理解する。 (2) バスケットボールの模擬授業を行う。			
テキスト 岡出 美則他 (編著) (2021) 『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店 9784469269116			
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領 (平成29年) 解説 保健体育編』東山書房 (https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf) 『高等学校学習指導要領 (平成30年) 解説 保健体育編 体育編』東山書房 (https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf)			
学生に対する評価 スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%)			